

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100060		
法人名	総合福祉 ひまわり		
事業所名	市之倉ひまわり小規模多機能事業所		
所在地	多治見市市之倉町13-83-353		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_021_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2191100060-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=021">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_021_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2191100060-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=021</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着施設として、市之倉・諏訪の住民の高齢者の昔馴染みの生活や、人間関係等を大切に、利用者一人一人の個性に密着した個別ケアを行っています。また、日曜喫茶と題し地域の住民に呼びかけて、地域での高齢者の方々が活動に積極的に参加が出来るよう要請し、福祉の情報を提供しています。利用者様、ご家族の生活リズムに合わせて安心して毎日過ごせるようご家族と連携を密にとっている。又レクも個別を重視し利用者様がいきいきと生活で楽しみが増えるように支援している。ご家族の今までの生活が保てるように、ご家族に合わせて送迎時間は自由に組み合わせで行い早朝とか、夜遅くはご家族が送迎も受け入れている。隣にある幼稚園との交流が季節の行事に合わせてあり、利用者様が大変喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、町内会に入会し、住民と触れ合う機会が増えている。地域の行事に参加したり、所内で開く日曜喫茶が定着し、毎回10名以上の隣人が訪れている。利用者とは、家族のような関係を築き、馴染みの生活を継続し、楽しみと生きがいを持つように支援をしている。家族には、都合に合わせた、柔軟なサービスの利用で、小規模多機能の利便性を実感してもらっている。管理者・職員は、常に利用者の立場になって、思いを共有し、個性を大切に暮らした提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模多機能の職員は、すべてのご利用者様、ご家族が安心安楽に利用していただける事業所として、利用者中心の高品質のサービス提供に努めます。私たちは、事業理念を全職員で周知徹底に努めております。	理念は、自分の居場所が実感できるようにと掲げ、利用者が住み慣れた地域の中で、安心して、笑顔で暮らせるように実践をしている。職員に、地域密着型サービスの意義を周知・徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	私たちは、利用者家族、町内会、民生委員、地区住民の方々と交流を行っています。地域の夏まつりに参加し盆踊りに参加したり、暮れの餅つき大会に参加し豚汁を頂いたり、隣の幼稚園の園児たちとのクリスマス、節分その他の行事の交流、毎月第3日曜日に開催する日曜喫茶での地域住民との交流を行っています。	今年度から町内会員になり、地域行事に参加したり、住民と親しいつき合いができています。第3日曜日は、所内で喫茶店を開き、地域住民と触れ合い、隣接の幼稚園とは、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小規模多機能型の契約者に限らず、地域で認知症の高齢者を支えてみえる家族の方や、要介護状態の高齢者を支えてみえる家族の相談や見学を常時受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームと一緒の運営推進会議において、地域の方々や行政の方からの、報告・話し合いを行い、参考意見等を反映した実践に努めています。	会議は、隔月に開催をしている。利用者の利用状況と充足、職員の確保などを検討している。また、併設のグループホーム、デイサービスと連携の在り方や経営上の安定について話し合っている。	利用者や職員の確保では、様々な機会を捉え、個人や地域、団体等に向けて、小規模多機能型サービスの理解を推進し、安定した経営に反映できるよう期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	多治見市高齢福祉課・地域包括と連絡を密にとり、新規の利用者の受け入れや、困難事例の対応について常に仕事のプロとして高品質のサービスの提供に努めています。又利用者様、ご家族が安心して生活出来る様に問題が起きた都度、市町村に相談し支援しています。	行政や地域包括支援センターと緊密に連携を取っている。担当者へは、運営の実情や困難事例を伝え、助言を得ている。行政主催の地域密着型事業者連絡会に参加をし、得た情報を運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	私たちは、常に事業理念を確認し、身体拘束に関する法令を遵守し、人間としての尊厳を大切にしたいサービスの向上に努めております。運営推進会議では日ごろの介護の確認を行っています。	身体拘束をしないことを原則に取り組み、本人の意思を尊重し、自由な行動を見守っている。また、具体的な事例を取り上げ、尊厳に対する認識を深め、人間的な感情を損なわないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、今まで学んできた事を実践の中で職員に伝えている。職員も虐待にならないように少しでも虐待にならないかどうか不安があればお互いに確認しながら支援している。		

岐阜県 市之倉ひまわり小規模多機能事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用できるように、研修などで学んでいる。管理者はグループホームで実際に成年後見制度、日常生活支援事業を利用している利用者様が見え積極的に活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を用意し、説明を行っています。また、希望される利用者には体験を提供しています。疑問点の内容・十分な説明を行い、署名捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者・家族様から不満等が伝えられやすい関係を保っています。管理者が訪問の際、問題、意見を聞くようにしている。又利用日に使う連絡帳に、ご家族からの意見等記入していただき職員に徹底し、運営会議に問題点として伝える場合もある。	本人・家族の意見は、送迎時や連絡帳で把握をしている。また、管理者が定期訪問し、気楽に意見を言える関係を築いている。着替えの管理や送迎時には、近所への配慮などの要望を受け、改善をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議で職員の意見・要望を取り上げ、検討反映させている。職員が直接代表者に要望することもある。	職員が意見や提案ができる定例会議がある。離職者を出さない環境づくりや、ゆとりある勤務体制、イベント企画、サービスの質の確保などを検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員状況を把握するよう努めている。介護の現場に入っていて職員の状況を掴み対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会開催の情報を職員に伝え、職員が自主的に研修に参加できるようにしている。又資格の取得に取り組めるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会、福祉用具業者・社会福祉協議会等を通じ交流を深め介護の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期相談時に家族と本人との面接に十分な時間を提供し、希望や不安な事を聞き、対応に努めている。施設を見学して頂き、希望があれば体験も提供しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事や、不安に思っている事をじっくり伺っている。それらの事からの解消に努めている。それ以降も困られていることがないかどうかを、管理者、職員が耳を傾けて聞き解消出来る様に考え信頼を得れるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	高齢者・利用者によって困っていることや希望も異なる。個別性に十分配慮したケアプランを立案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人こだわりのある生活が望まれます。職員自身も介護の現場に共有の時間を大切に、暮らしを組み立てている。利用者様の出来ることを積極的にやってもらいお互いに感謝しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を家族と一体になって支えることで、本人と家族・職員の絆を築きたいと努力を続けています。利用票と計画にサインをいただくとき、時には問題がある時に訪問して充分にお話を聞き関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の生活の中にも絶えず地域的话题を提供し利用者がこれまでの馴染みの人や場所・行事に関心を持ち続けられるように支援します。	本人情報は、事前のアセスメントで、馴染みの人や場を把握している。併設のグループホームやデイサービスの利用者や交流したり、喫茶店や買い物、地域行事、親戚訪問など、馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、レクを通じて利用者同士の関係を支援します。全体がいつも同じ動きや、支援を提供しない試みに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族との継続した相談や援助、希望する情報の提供をします。他の施設に入居になった利用者様のご家族が施設での状況を連絡してくださる事もある。又亡くなられた利用者様の命日にお参りに行くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いやこだわりを大切にし、ケアプランを作成し、援助しています。困難な場合は家族や本人と極力話し合う事に努めています。	本人の生活歴に加え、日頃の言動から思いを把握している。無口で困難な人は、場面づくりを工夫したり、表情から汲み取り、習慣やこだわりを大切に、自分らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族・本人から出来る限り詳しく話を伺うように努めている。通所や泊りの共有する時間に利用者のこだわりや生活の癖等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態・日々の暮らしを把握し記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人・家族とのコミュニケーションを日頃よりとることによって、現状の状態に即した介護計画を立案するように努めている。ご家族、職員の意見を聞き随時計画を見直して作成している。	管理者や看護師が自宅を訪問し、本人・家族の意向を確認している。定期的にモニタリングを行い、転倒を予防し、自分の力で歩けるように支え、楽しく、生きがい持てるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の介護記録だけでなく職員間の連携した介護情報を共有するべく申し送りノートを活用し介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じた、通所、宿泊サービスを組み立て、必要な場合は通院介助なども並行して施行している。利用時間帯においても柔軟な対応をするように努めている。		

岐阜県 市之倉ひまわり小規模多機能事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人のみならず、家族との意向を考慮しながら出来る限り、地域での行事に参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院等は家族対応を原則としている。継続して行う医療処置については、施設の看護師が申し送りを受け実施している。	かかりつけ医は、個々に継続し、家族が受診に付き添っている。受診情報は、関係者で共有し、適切な医療を受けている。協力医とは、24時間の連絡体制を取り、急変時に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療処置が必要な場合は、原則看護師が支援を行っている。自宅での往診時も可能な限りケアマネか看護師が付き添い主治医とのスムーズな連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護支援専門員が看護師と連携を取り、病院等との連携、情報交換を行っている。時々様子を見に行き主治医や相談員と連携とっている。病院の相談員からも入院されている他の患者様の受け入れで相談が来ることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化や終末期の在り方について説明している。家族から相談がある場合は、早い時期からターミナルケアについて相談を行っている。主治医にも相談して連携を取っている。ターミナルケアについて職員は自発的に研修に参加し、職員会議等で情報を共有するよう努力している。	事業所の方針を明確にし、本人・家族の意向を確認している。常に医療行為が伴う場合や状態の変化に応じて、関係者で話し合い、方針を共有している。終末に向けては、医療連携を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備、消防署実施の救急講習に参加し、応急手当や初期対応の実践を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	多治見南消防署の指導で訓練を実施。施設内状を地域・多治見南消防署に伝え協力を要請している。昨年より町内会に入会し地域の活動に参加する機会が増えている。地域の住民と一緒に訓練し協力体制を築けるように心がけて進めている。	消防署の立ち合いで災害訓練を行い、町内の防災訓練にも参加をしている。夜間や地震を想定し、通報、避難、消火、AEDの操作などを実施している。地域との連携と防災用品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かけがえのない利用者一人一人の尊厳を大切にし、声かけの仕方、対応には十分配慮するように管理者自ら注意をし、他の職員にも促している。	その人らしい生活ができるよう、尊厳を大切に、言葉かけや対応の仕方に配慮をしている。ケアの場面では、誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないように対応をし、本人の意思を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者が思いを話しやすい環境を作っている。少ない会話から本人の思いや希望を的確に把握できるように日頃から密な聞き取りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個人的なペースに合わせた生活を大切に頂くよう声かけをし、穏やかな時間を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族との連絡を密にし、利用者のこだわりの身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が生活の中で重要な楽しみである事を職員は認識し利用者との会話の中にも大いに献立や地域の食について話題を提供するよう努めている。時にはグループホームと一緒に外でバーベキューや流しソーメンで食事を楽しむ事や、気分を変えて外食にでかけて食事をすることもある。	食事は、彩り豊かに、好みや旬の食材を取り入れている。職員も同じ食事を摂り、献立を話題にしながら、楽しい時間を共有している。食前の嚙下体操で、食欲を促し、たまには、外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の調理師との連携を取り、バランスのとれた食事を提供している。一日のスケジュールの中に水分補給の時間帯を頻繁にとっている。個人的な利用者の要求にも直ぐ応じる体制が保たれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後支援介助し、入れ歯の清掃は毎日支援し記録に残している。義歯等本人ができる範囲は自分で口腔ケアしてもらっているが、後職員が清潔になっているか確認している。		

岐阜県 市之倉ひまわり小規模多機能事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個性を把握し、排泄パターンを職員で共有しながら状況に応じたりハビリパンツ・パット・トイレ誘導・介助を行っている。	一人ひとりのパターンに応じて、トイレへ誘導し、自立を支えている。夜間は動きに応じて、声をかけ、安眠できるように努めている。日中は、リハビリパンツを使用し、個別に応じて、パッドを組み合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防を日頃より職員全員で心掛け、水分補給や繊維の多い野菜などを多く取って頂くよう支援している。また、排泄記録を取り、必要な際は医療支援を受けるよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は原則曜日を決めず、利用者の体調に応じてできる限り入浴ができるよう支援している。	入浴は、毎日の希望にも応じている。重度者は、併設の機械浴を利用し、拒否の人には、時間を変更したり、強制をしないよう、気分転換を図っている。羞恥心にも配慮をし、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを大切に、状況に応じた休息ができるように声かけ、仮眠の誘導を行っている。ソファを置いて、いつでもゆったり気分を変えて休む事が出来る様になっている。又泊りの部屋でベッドで休む事が出来る様にもしている、随時声掛けして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による指導と、処方箋の確認により服薬管理を行い、記録に残している。不明な薬については調べるよう努めている。症状の変化に応じてご家族、主治医と連携し本人の最適な服薬支援が出来る様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	通所・泊りサービス利用時の生活において、利用者に参加可能な家事においては、個々のできる限りの力において作業をする支援をし、生活感を味わって頂くように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望がある場合は家族との連絡を必要に応じて取るようにつとめている。家族の都合を十分考慮し、無理のない外出支援をしている。	敷地内の散歩は、日常である。買い物や外食、公園、修道院などへ出かけ、年間では、季節の花見や紅葉狩りなどの外出がある。特に行きたい所があれば、家族と協力して支援をしている。	



岐阜県 市之倉ひまわり小規模多機能事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在契約者の中でお金の管理が可能な利用者はいない。しかし、今後は利用者の個別性に着目し、家族と連絡密にし個別対応を考慮中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりはおもに家族が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな山の自然の中に位置しており、施設を取り巻く環境は常に季節の草花でただよっている。日頃のレクリエーションも季節感をだす出し物に配慮している。ソファを置いてゆったりと自分の時間を過ごせる場所を提供している。	建物は、丘陵の高台にあり、窓越しに、季節感を味わえる。居間には、絵画やはり絵、塗り絵などを飾り、ソファーには、動物のぬいぐるみがある。季節の花や赤ちゃん人形もあり、居心地のよい、空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の個性を大切にし、気の合った者同士の交流を大切にした支援をしている。レクなどの施行に対して強要する支援は極力控え、自分の時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしているものは家族の理解を得て持参して頂くようにしている。不穏な状態の時は馴染みの事からの会話に努めている。	部屋には、ベッドと整理ダンスを備えている。泊まりでは、まくらやカレンダーなど数点を持ち込んでいる。連泊の人は、阿弥陀仏やアルバムなど、安心できる物、自由である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通所・泊りサービスの関わりの中で本人のできることはできる限り本人でやり続けられるよう、安全確保し介助・支援するように努めている。		